

開講日	2025年秋期 火曜日 18:30-20:00	講義場所	Zoom配信 + 対面講義(医学部研究棟11階 講義室A)
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野 教授 杉浦健之		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】毎年、痛み診療に直接関わる、あるいは、興味を持っているスタッフが大勢参加してくれています。本年度の学びなおし講座は、神経疾患、整形外科疾患、精神疾患、がん・高齢者に特有な痛み、器質的疾患から機能的疾患、心理社会要因への対応など、“痛み”に関わる広い領域のレクチャーを企画いたしました。痛み診療の知識をアップデート・整理するのに最適な講演内容となっています。講師陣は、医師、看護師、薬剤師、心理士、理学療法士と、多診療科・多職種からの講師陣を揃え、幅広い領域の中での”痛み”の最新情報や、”痛み”診療現場における生の声をお届けいたします。リピーターの参加者にも楽しんで勉強していただけるよう、毎回新たな講師陣、テーマを迎え、皆様のご参加をお待ちしております。 【期待される成果】どの専門領域でも、痛みに関わらない医療分野はありません。医師や看護師の他、薬剤師、理学療法士、臨床心理士、管理栄養士、社会福祉士など多職種の方々に、痛み診療に関わるハイレベルな知識と技術を身につけていただき、患者さんのために“多職種チーム医療”に貢献できる人材育成を目指しています。痛みにお困りの方に寄り添い、適切な治療やアドバイスが出来る仲間をますます増やしていきたいと考えております。		
目標とする 資格	いたみマネージャー・いたみコーディネイター(日本痛み財団)など		

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	神経疾患に伴う痛みについて	主に脳神経内科で診療する神経疾患が原因で、様々な痛みを訴えられることはよくあります。それぞれ疾患の病態に応じた痛みの対応が望ましく、比較的良好に見られる痛みの出やすい各種神経疾患の病態や最新の治療を紹介し、理解を深めます。	9月2日	大喜多賢治 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 脳神経内科 准教授
L-2	2	周術期の末梢神経障害	周術期の末梢神経障害の主な原因の一つに手術体位が挙げられる。体位による術後神経障害を疑う患者に出会った時、どのように診察・診断をすべきかを中心に模擬症例を交え、学習する。	9月9日	佐藤玲子 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野 /名古屋市立病院 いたみセンター 病院助教
L-7	3	痛みの薬物療法における課題	痛みを抱える患者さんは薬が増えてしまうため、沢山の薬を内服している方が多くいます。患者さんはその薬をきちんと内服できているのでしょうか。近年話題になっているポリファーマシーの問題も含めて、薬剤師の視点でお話しします。	9月16日	榊原諒子 名古屋市立大学病院 薬剤部 /いたみセンター 薬剤師
L-4	4	股関節の構造と痛みの出現するメカニズムと治療	股関節の痛みは様々な病気や怪我で起こります。本講座では、①股関節の構造②痛みの出現するメカニズム③リハビリテーション ④最新の手術などについてお話しします。	9月30日	黒柳元 名古屋市立大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学 /名古屋市立大学病院 いたみセンター 講師
L-5	5	慢性疼痛の併存精神疾患	慢性疼痛患者では、しばしばうつ病や双極症、不安症などの精神疾患を併発し痛み症状の遷延化を引き起こすとともに、さらに痛み症状がこれらの併存精神疾患の難治化につながるという悪循環を来す場合があり、臨床的にも大きな問題となっている。本講義では、慢性疼痛に併存しやすいこれらの精神疾患について概説する。	10月7日	小川成 名古屋市立大学大学院人間文化研究科臨床心理コース 教授
L-6	6	慢性疼痛の認知行動療法	慢性疼痛には身体面だけで心理社会面の影響が指摘されています。心理面へのアプローチとして認知行動療法の有効性が報告されています。本講義では認知行動療法について概説し、慢性疼痛治療における認知行動療法の適用方法について解説します。	10月14日	松原弘和 名古屋市立大学病院 臨床心理科・いたみセンター 公認心理師・臨床心理士
L-3	7	慢性疼痛の緩和を目指して ―トラウマ治療とリハビリテーションの視点から―	慢性疼痛の背景には、心的外傷(トラウマ)体験が認められることが少なくない。トラウマ記憶の様々な要素が痛みと強く結びついた病態では、トラウマに対する心理療法の疼痛緩和に寄与する場合があります。模擬症例を交えて概説する。また心理療法ではないが、複合性局所疼痛症候群(CRPS)に対する治療法の一つとして、皮質指向性感覚運動リハビリテーションの例についてもお話しする。	10月21日	中口智博 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野 助教
L-8	8	高齢者の痛み	高齢者は複数の疾病に罹りやすく、その多くは痛みを伴うため、生活全般に大きな影響を与えます。したがって、高齢者に対する痛みのマネジメントが重要であり、まずは痛みのアセスメントが必要になりますが、認知機能の低下等で、適切なアセスメントを行うことが困難になります。本講義では高齢者の痛みアセスメントについて概説します。	10月28日	久保田 正和 名古屋市立大学大学院看護学研究科 看護地域連携センター 教授
L-9	9	がんやがんの治療に伴う痛みを包括的に捉える看護師の視点とケア	がん患者さんは、がんやがんの治療に伴い身体的な苦痛だけでなく、心理・社会的な苦痛やスピリチュアルな苦痛を抱えています。臨床の看護師が、患者さんの苦痛をどのように捉えケアを行っているか、について臨床経験を交えてお話しします。	11月4日	尾崎麻子 名古屋市立大学病院看護部 がん看護専門看護師
L-10	10	慢性痛の評価と運動療法の重要性	慢性痛は無意識の回避行動や感受性の亢進を引き起こし、活動制限の悪循環を生みます。本講義では、慢性痛の評価を通してそのメカニズムを理解し、運動療法の重要性とリハビリの実践的アプローチについて概説します。	11月11日	堀場充哉 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻 講師/名古屋市立大学病院 診療技術部部長 理学療法士
L-11	11	筋筋膜性疼痛と頭痛のリハビリテーション	筋性のいたみは身近でありながら、鎮痛剤が効きづらいなど、患者自身が対処に苦慮することが多いです。防御的・回避的な行動が逆に症状を強めてしまうこともあります。リハビリテーションの視点でのアプローチを概説します。	11月18日	池田 崇 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻 理学療法学コース 運動科学分野 教授
L-12	12	「がんロコモと骨転移に対する運動支援:痛みを抱える患者への安全なアプローチ」	がんロコモの概念を踏まえ、骨転移による疼痛と運動機能低下を抱える患者に対する、評価、リスク管理、安全な運動介入の考え方を解説します。他職種と連携しながら患者のQOLを支えるための視点と、臨床に役立つ実践的知識を提供します。	11月25日	黒川由貴 名古屋市立大学医学部保健医療学科リハビリテーション学専攻 理学療法学コース 助教
L-13	13	慢性痛とリエゾン～主に身体症状症の病態理解、対応、治療について～	痛みなどさまざまな苦痛を伴う身体症状が長期に持続し、症状に対する不安や極端な思考が持続する場合には、身体症状症(somatic symptom disorder: SSD)と診断される。SSDは精神科外来やリエゾンで診療する機会が多く、十分な理解に基づく丁寧な対応が求められる。本講義では、SSDの病態理解、対応、治療についてお話しする。	12月2日	井上朋子 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野 病院助教
L-14	14	慢性疼痛診療における心理職の役割と機能―集学的いたみセンターに所属する心理職の立場から―	本講義では、集学的痛みセンターに所属する心理職(講師)の立場から、当センターにおける多職種診療システムを紹介し、当センターでの心理職の臨床業務、講師の研究実践について紹介する。聴講者の方には、心理職が日々の臨床の中で、どのようなアセスメントの上に動いているか、知っていただく機会になればと考えている。	12月9日	酒井美枝 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学 /名古屋市立大学病院いたみセンター 特任助教 公認心理師・臨床心理士
L-15	15	漢方治療の痛み治療へのアプローチ	長引く痛みの原因の一つとして、脳や脊髄での痛みの感じ方の異常が原因と考えられています。漢方はその背景にある個々の体質や心身バランスの乱れにアプローチすることで、痛みの緩和につなげます。症例をあげながら漢方薬選択のヒントを紹介しします。	12月16日	加藤利奈 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野 /名古屋市立病院 いたみセンター 助教